

- スズキ、「キャリイ」・日産「NT100クリッパー」、マツダ「スクラム」、三菱「ミニキャブ」について、エンジン始動不能やエンストの恐れがあるとしてリコール  
2015年10月6日～2016年6月15日に生産した4万1919台。また、交換修理用部品として出荷し、組付けられた車両が特定できない部品64個も対象エンジンコントローラにおいて、IC(集積回路)の製造管理が不適切なため、使用過程においてIC内部で断線し、エンジン始動不能や走行中にエンストするおそれがある。
- トヨタ自動車、「ノア」「ヴォクシー」「bZ4X」・レクサス「NX250」「NX350」「NX350h」「NX450h+」・スバル「ソルテラ」について、レーントレーシングアシスト(LTA)、ディスプレイオーディオ、電動パーキングブレーキに不具合があるとしてリコール  
2021年9月1日～2022年8月9日に生産した6万0258台  
LTAはレーダークルーズコントロールの作動中、車線維持に必要なハンドル操作を支援するシステム。今回、制御プログラムが不適切なため、ハンドル舵角の中立位置のずれにより、LTAでのハンドル操舵の補正が不足するものがあることが発覚。カーブと車両速度の状況によっては、早期に警報が作動して、運転者による操舵が必要となり、保安基準第11条(かじ取り装置)に適合しないおそれがある。対象となるのは4万9651台。ディスプレイオーディオについては、制御プログラムが不適切なため、ナビのルート案内中に車両を再始動し、直後にパノラミックビューモニターの映像を表示した場合、ナビ案内図を車両左側の映像に重ねて表示する場合がある。そのため、車両左側の映像が確認できず、保安基準第44条(後写鏡等の基準)に適合しないおそれがある。対象となるのは3万0721台(ソルテラ/bZ4Xは対象外)。電動パーキングブレーキについては、制御コンピュータ電源回路の異常検出プログラムが不適切なため、回路内で発生する一時的な応答漏れを異常と誤判定することがある。そのため、警告灯が点灯して、電動パーキングブレーキが作動しないおそれがある。対象となるのは2万7599台(ソルテラ/bZ4X、NX450h+/350hは対象外)。
- UDトラックス、「クオン」のワイパーおよびヘッドライトに不具合があるとしてリコール  
2021年3月4日～2022年7月28日に生産した1万1718台。日野やいすゞへOEM供給したモデルの対象となる。  
ワイパーについては、作動を制御する車両マスター制御ユニットのプログラムが不適切なため、間欠モードで作動中に定位置で停止した時に、ワイパースイッチを操作し再起動すると、ワイパーリレーの接点部でアーク放電が発生し短絡することがある。そのため、ワイパーモータの電源回路に過流電が流れてヒューズが溶断し、ワイパーが不動作となるおそれがある。対象となるのは1万1714台。ヘッドライトについては、自動点灯機能において、フロントシヤシ入出力モジュールのプログラム設定が不適切なため、IG電源オン時に当該モジュール内の処理状況によってはメモリ容量が不足することがある。そのため、自動点灯・消灯機能が非常用モードになり照度に関係なくロービームが常時点灯状態となるため、ロービームの自動点灯および消灯に関する要件に適合しなくなるおそれがある。対象となるのは1万1043台。
- 日野自動車、認証申請で不正行為があった大型エンジン「E13C」を搭載する「プロフィア」および「セレガ」がリコール  
2017年6月6日～2022年3月4日に生産した2万1100台  
大型エンジン「E13C」は燃費測定において、燃料流量校正値を燃費に有利に働くような数値に設定し、実際よりも良い燃費値を燃費計に表示させるようにして試験を実施。技術検証により、実際の燃費性能が諸元値に満たないことも判明している。
- メルセデス・ベンツ日本、「C220d」等ディーゼルエンジン搭載車8モデルについて、クーラントポンプに不具合があるとしてリコール  
2012年4月16日～2022年6月8日に輸入した8229台  
ディーゼルエンジンに搭載されているクーラントポンプにおいて、軸受けシールの設計が不適切なため、作動の制御が行われている負圧回路へ冷却水が浸入し、負圧回路の関連部品が作動不良を起こすことがある。そのため、エンジン警告灯が点灯する、出力が低下する、ブレーキブースターの機能が低下する等の不具合が発生。排気ガスの再循環装置(EGR)制御用の電磁バルブに作動不良が発生した場合は、エンジン警告灯の点灯とともに排ガスが悪化し、さらにショートが発生すると発熱して周囲を溶損させることで、最悪の場合、火災に至るおそれがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「メルセデスAMG E53 4マチック+」等計7車種について、電気配線に不具合があるとしてリコール  
2018年7月24日～2022年8月8日に輸入した6590台  
トランスミッションの電気配線において、配策設計が不適切なためコネクタ配線のシール部に強い力がかかり、シール部を変形させているものがある。そのため、シール性能が保たずコネクタに雨水等が浸入することでショートし、駐車中にバッテリー上がりが発生することがある。最悪の場合、ショートにより発熱することで、周囲の部品を溶損させて火災に至るおそれがある。
- ボルボ・カー・ジャパン、「V60」等計8車種について、燃料タンクに雨水が混入するおそれがあるとしてリコール  
2016年1月14日～2020年11月24日に輸入した1万6007台  
燃料給油口の防水設計が不適切なため、大雨等により燃料装置内部へ雨水が浸入することがある。そのため、燃料ポンプが腐食し、走行中にエンジン警告灯の点灯、エンジン性能の低下、エンジンストール、エンジン始動不良に至るおそれがある。
- マツダ、「CX-60」のフロントスタビライザおよびインバータに不具合があるとしてリコール 2022年7月5日～9月6日に生産した879台  
フロントスタビライザについては、コントロールリンクを固定するナットの締め付けトルクの設定が不適切なため、段差の乗り越え等で締め付けナットが緩み、がたつきや異音が発生することがある。そのため、保安基準第14条の緩衝装置に求められる要件を満たさないおそれがある。インバータについては、起動制御プログラムが不適切なため、エンジン始動の際にインバータを起動できず、エンジンが始動しないことがある。またハイブリッドシステムの異常を知らせるメッセージがメータ内ディスプレイに表示されるおそれがある。
- ポルシェジャパン、「タイカン」等計6車種について、ブレーキブースター警報に不具合があるとしてリコール 2020年10月19日～2022年7月21日に輸入した1334台  
ブレーキブースター警告装置において、インストールクラスタのプログラムが不適切なため、ブレーキブースターの故障時に警告灯が点灯せず、警告メッセージ確認後には誤った警告灯が点灯し、保安基準に適合しないおそれがある。